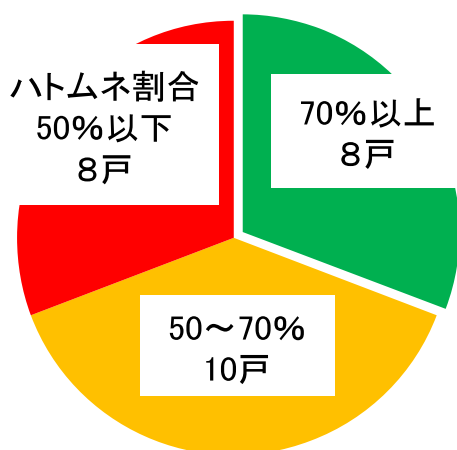


# 催芽のポイント

浸種がうまくいけば、健全な出芽への準備は整ったも同然です。しかし、催芽で失敗することもあります。最後まで油断せずに取り組みましょう。

適正な出芽を確保するためには、催芽の見極めが重要になります。ハトムネの割合になっているのをよく確認してから催芽を切り上げるようにしてください。

## ●●● その種、ホントにハトムネになってますか？ ●●●



試験委託農家26戸の催芽した種もみを見ると、多くの方がハトムネの状態になっていませんでした。

発芽の早さは品種や袋によって大きく違います。催芽を終了するタイミングは必ず袋ごとによく確認して調整してください。

## 種もみをよく観察しよう



浸種が改善されると、催芽時間が短縮されることが多いので、芽の出すぎにならないように、注意してください。

(最短で15時間程度でハトムネに)

適正な催芽は、**30~32℃**で、**ハトムネ割合70%以上**

次のページから実際の催芽方法のポイントを紹介します。

# 催芽の実際 ①

## 循環式催芽機（浸種兼用）

おすすめ度



催芽の適正な温度を保ちながら、シャワーで種もみに酸素を送り込みます。循環した温水が、種もみの芯まで均一に熱を伝え、発芽のそろいを良くします。



名称	穀物酢
酸度	4.2%
内容量	1.8L
賞味期限	



### ポイント

- 褐条病防止のため催芽時は食酢を併用する。  
(穀物酢 酸度4.2%・50倍液)
- 催芽終了後は種もみを陰干しにする。
- 使用後は機械についた酢をよく洗いながす。
- 食酢液は再利用しない。

### ○ メリット ○

- 天地返しなどの手間が不要。
- 催芽温度を確実に維持できる。
- 温度ムラ・酸欠になりにくい。

### × デメリット ×

- 機材購入費用が高い
- 使用しない時の置き場所が必要
- は種前に種もみを一度陰干しする必要がある。

### 現場で見られる失敗

- 食酢を入れ忘れ、褐条病が出た。
- 陰干ししていた種もみが凍結した。

## 催芽の実際 ②

### 蒸気式催芽機

おすすめ度



熱線で温めた湯の蒸気で種もみを蒸らして芽を出す方法です。現在もっとも多く行なわれている方法です。やり方を少し間違えると、ふそろいになるので注意が必要です。



#### ○ メリット ○

- 比較的少ない手間で安全に催芽できる。

#### × デメリット ×

- 天地返しやほぐしをおこたると温度ムラになる。
- 機材購入費用がやや高い。
- もみを多く入れすぎると、温度ムラができる。

#### ポイント

- 種もみを多く入れすぎず、棚に袋をゆったりした状態にして広げる。
- 種もみを機械に入れる前に湯に浸し、中まで良くあたためておく。
- 数時間ごとに天地返しをする。
- 内蔵の温度計とは別に温度計を入れてもみ周辺の温度を確認する。

#### 現場で見られる失敗

- 機械や袋に種もみを多く入れすぎて不ぞろいになった。
- 古い機械を使っていたら、温度が十分上がっていなかった。

# 催芽の実際 ほか

## 風呂湯で催芽

おすすめ度



風呂の浴槽などに湯を張り、種もみを漬けて保温し催芽する。

### ○ メリット ○

- 特殊な器材などが不要

### × デメリット ×

- 浴槽上下で温度差ができる
- 一定温度を確保しづらい

発芽ムラになる場合は市販の催芽機の購入を検討してください。

### ポイント

- 途中で湯を足す。
- こまめに天地返しをする。

### 現場で見られる失敗

- 湯が早く冷めて、芽の出方が遅れた、不ぞろいになった。

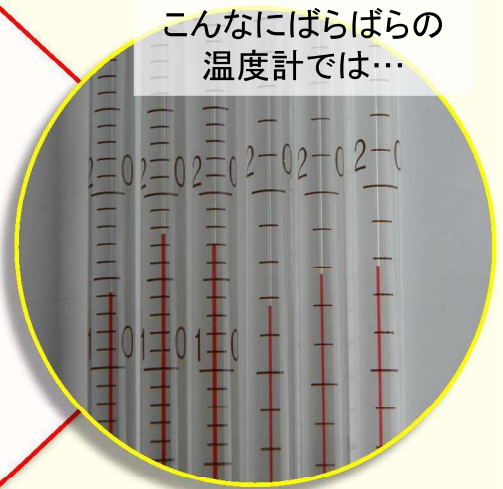
## その他

- 自作催芽器や、毛布や麻袋でくるんで催芽するなどの「自己流」の方法は、温度ムラや加温不足になりますので、やめましょう。
- 催芽時に段階的に水温をあげるなどもやめてください。

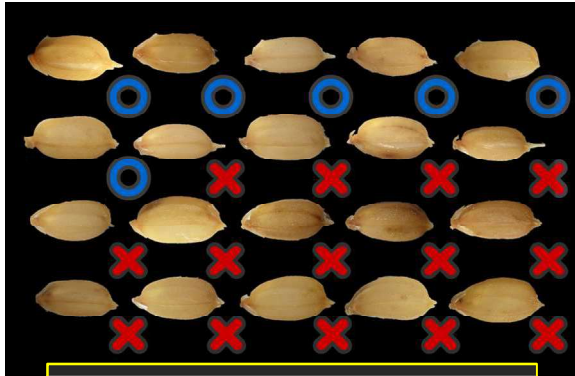
### 温度計も大事な農具です

温度計は栽培管理には欠かせません。しかし、意外と精度の悪いものが使われているのを見かけます。使用前には温度計を並べて確認しましょう。できる限りこまめに買い換えましょう。

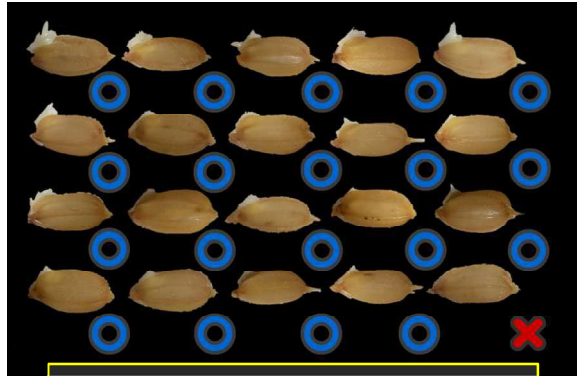
こんなにばらばらの温度計では…



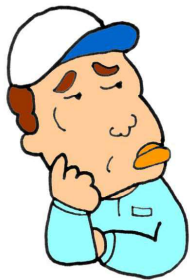
なぜ**出芽**がそろわない？ なぜ人より**催芽**に時間がかかる？



低温浸種 → 催芽24時間後



適正浸種 → 催芽24時間後



温田さん

出芽がそろわなかったり、催芽に時間がかかる人は、浸種方法が適正でない可能性が高いです。催芽に30時間以上かかるような場合は、浸種の方法を見直す必要があります。

いつも芽がそろわな  
いから困るんだよな



湯川さん

浸種が良いから、いつ  
も芽はばっちりそろろうよ

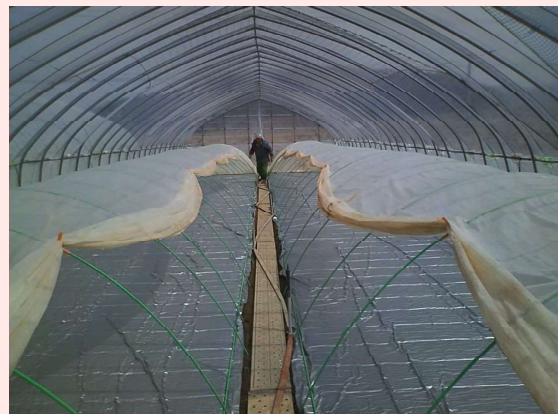
## 出芽のポイント

浸種や催芽がよくても、置床の環境が悪いと思うように出芽しません。近年は、極端な低温日・融雪の遅れがあるなどで春のトラブルが増えています。育苗環境を万全に整えて、育苗に臨みましょう。



置床の早期乾燥を。  
ビニールは3月中に張れるように。

シルバーポリのべたがけのみでは十分な出芽温度を確保できません。二重トンネルで保温を。



もみに冷水をかけても芽は出ません。必ず温めた水を使いましょう。



苗定置直後や低温時に、湯をかん注すると、出芽が良くなります。



### **焼け** に注意！（最近増えています）

浸種・催芽が悪いと、出芽までの時間がかかるため、被ふく期間が延び、焼けやすくなります。ハウスの水や温度管理に気をつけることも大切ですが、適正な予措を行なって、できるだけ出芽を早めることが大切です。

は種後から出芽そろいまで**30～32℃**、**35℃**以上は**危険信号**

## その他のポイント

### ◎ 保管時の注意

種子は、保存状態が悪いと発芽力が落ちます。15℃以上になるような環境（室内など）には置かないでください。

### ◎ 乾燥していない種子の取扱

乾燥せずに配送される種子は、受取り後すみやかに水につけてください。水は前日から用意をし、あらかじめ適正な水温にして置いてください。

### ◎ 温湯消毒種子の取扱は清潔な環境で

温湯消毒種子は無菌状態にあり、二次的な汚染には弱いです。水槽・スノコ・水は清潔なものを使用してください。河川の水は使用しないでください。